



夏かぜの季節です!

6月上旬からアデノウイルスの流行がみられます。下旬からはヘルパンギーナで来院されるお子さんが増えてきました。手洗い・うがいを忘れずに、栄養や休息を十分とって夏かぜを予防しましょう。

《アデノウイルス感染症》

乳幼児期から学童期に多いかぜのひとつです。主な症状は4～5日間続く高熱とのどの痛みで、ときに頭痛・吐き気・腹痛・下痢を伴うこともあります。眼の充血を伴うものを咽頭結膜熱(プール熱)といいます。アデノウイルス迅速検査で診断が可能です。◎食欲がなくなりぐったりして来院し、点滴を受けるお子さんもいます。◎「安静」と「水分補給」が大切です。水分やのどごしのよいものをとるように心がけ、元気がない時は早めに受診しましょう。◎感染力が強いので、熱が下がった後も2日程度は学校や幼稚園、保育園はお休みです。

《ヘルパンギーナ》

乳幼児に多く、急に熱が出て、38～40度の高熱が2、3日続きます。のどの奥のほうに小さな水ぶくれができて痛みます。のどの痛みがひどいと食事がとれず、ときには水分も飲めなくなり脱水症状になることがあります。

□治療:熱が高い時は熱さましを使います。抗生物質は必要ありません。

※こんな時は早めの来院を※

- ・高い熱が続くとき、ぐったりして元気がない。
- ・嘔吐する、頭痛がひどい、水分もうけつけない時。



2ヶ月にならなったら、年長にならなったら、予防接種をはじめましょう!

熱中症

「熱中症」は高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かないことで発症します。炎天下の屋外だけでなく、屋内でも熱中症は見られますので、体育館での運動や行事の時も十分ご注意ください。特に子どもやお年寄りには注意が必要です。熱中症の症状は、こむら返りやめまい、立ちくらみ、気分不良、頭痛、嘔吐などです。異変を感じたら涼しい場所に移動し、衣服をゆるめて冷たいイオン飲料を飲み、首の周り、脇の下、足の付け根を氷や保冷剤で冷やしましょう。自力で水が飲めない、意識がもうろうとしていたら至急受診が必要です。

《予防》

- ◎暑さをさける
室内では…エアコンで温度を調節!(26～27度に)
外出先には…日差しを避け、暑い時間帯の外出はできるだけ控えましょう。日傘や帽子、そして通気性のよい吸湿性速乾性のある衣服を着用しましょう。
- ◎こまめに水分を補給
特に外出時には、こまめに水分をとり、大量に汗をかいた時などは経口補水液などで塩分も補いましょう。



駐車場の車中に子ども1人だけで置いてくる等は大変危険です。短時間でも絶対にしないでください。

お知らせ

休日当番医のお知らせ

8月5日(日)は休日当番医となっております。
電話予約は **8:15** からです。

夏休みのお知らせ

8月11日(土)～8月18日(土)
お休み中のお薬は早めに予約をお願い致します。

7月の予定

月	火	水	木	金	土	日
◎院長の診療後の予定◎ ①:医師会の会合 ②:小児科関係の会合 ③:その他						1 休診
2 院長 貴田岡副院長 14:00-14:45 院内勉強会	3 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	4 午前 院長 午後 Dr.及川 ① ②	5 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ① ②	6 院長 ①	7 Dr.藤原 ①	8 休診
9 院長 貴田岡副院長 ①	10 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	11 午前 院長 午後 Dr.高橋 ①	12 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	13 院長 ①	14 Dr.力石 ①	15 休診
16 海の日 休診	17 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	18 午前 院長 午後 Dr.相原 ①	19 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	20 院長 ①	21 Dr.今泉 ①	22 休診
23 院長 貴田岡副院長 ①	24 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	25 午前 院長 午後 Dr.内田 ① ③	26 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ①	27 院長 ①	28 Dr.植松 ①	29 休診
30 院長 貴田岡副院長 ①	31 院長 貴田岡副院長 午後:健康外来 ③					